報道関係者各位 取材のお願い

2019 年 4 月 26 日

公益財団法人笹川平和財団

海遊館

5/12（日）海洋フォーラムを開催

大阪から世界の海へ ～海とヒトの関係を考える～

場所：海遊館（海遊館ホール） 時間：13:30～17:00

公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所（東京都港区 所長：角南篤、以下、海洋政策研究所）と海遊館（大阪市港区 館長：西田清徳、以下、海遊館）は、 2019 年 5 月 12 日（日）に、海遊館に併設の「海遊館ホール」にて、海洋フォーラム「大阪から世界の海へ ～海とヒトの関係を考える～」を共催します。

大阪湾は、大型のクルーズ船や貨物船が行き交い、人工の島や岸壁も多数存在していますが、漁業が盛んに行われ、スナメリ（鯨類）が生息するなど、海とそこに棲む生き物とヒトの暮らしが密接に関わっています。また、大阪湾の南には黒潮の流れる太平洋が開け、世界の海へとつながっています。

本フォーラムの第一部では、いま大きな問題になりつつある海洋プラスチックゴミなどの海の環境問題をテーマに、大阪湾と世界の海の動向について議論いたします。第二部では、水産業をはじめ私たちの暮らしに密接な関係のある魚食文化の課題と展望について議論します。ぜひ様々な視点から皆様と一緒に考える機会になれば幸いです。

ご取材を希望される方は２枚目に記載の URL もしくは３ページ目の申込用紙に必要事項を記入のうえ、**5 月 10 日（金）１７時までに** FAX またはメールでご返信ください。

【 取材要項：海洋フォーラム「大阪から世界の海へ ～海とヒトの関係を考える～」 】

《日 時》 2019 年 5 月 12 日（日）13:30～17:00（開場 13:00）

《場 所》 海遊館ホール（海遊館に併設しており、海遊館に入館しなくてもホールに入ることができます）
大阪市港区海岸通 1-1-10(大阪メトロ 中央線「大阪港駅」1 番出口より徒歩約５分）

《内 容》

開会のご挨拶 角南篤（海洋政策研究所・所長）

第１部：大阪の海と世界の海

1. 「開催施設からのご挨拶、海遊館の取組み」 西田清徳（海遊館・館長）
2. 「豊かな大阪の海に向けて」 岩井克巳（大阪湾沿岸域環境創造研究センター・専務理事）
3. 「海の環境をめぐる世界の動き」 前川美湖（海洋政策研究所・主任研究員）
4. 「パネルディスカッション：大阪の海と世界の海－G20 に向けて」

第２部：海とヒトの関係を考える

5. 「海とヒトの関係学にこめた想い」 秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター・所長）
6. 「マグロ資源の管理・保全に向けて－完全養殖の役割」 升間主計（近畿大学水産研究所・所長）
7. 「サメ資源保護と魚食－インドネシアのサメ漁業の村から考える－」 鈴木隆史（桃山学院大学・兼任講師）
8. 「世界で最も美しい湾クラブ」 高桑幸一（美しい富山湾クラブ・事務局長）
9. 「パネルディスカッション：将来に向けて取り組むべきこと－国際社会のなかで」

報道関係者各位 取材のお願い

2019 年 4 月 26 日

公益財団法人笹川平和財団

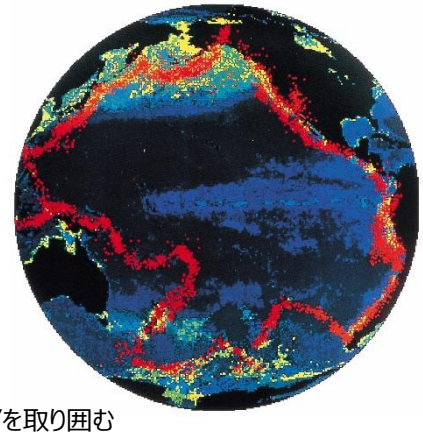
海遊館

【笹川平和財団海洋政策研究所について】

笹川平和財団海洋政策研究所の前身にあたる「海洋政策研究財団」は「人類と海洋の共生」を目指して 2000 年から海洋政策の研究、政策提言、情報発信等を行うシンクタンク活動を開始し、2007 年の海洋基本法の制定に貢献しました。海洋に特化したシンクタンクとして、笹川平和財団海洋政策研究所は今後も海洋ガバナンスに関する国際的な会議や議論に積極的に参画し、当財団のミッション・ステートメントに掲げられている「新たな海洋ガバナンスの確立」に向けて貢献していくことを目指しています。

【海遊館について】

1990 年 7 月にオープン。“地球とそこに棲むすべての生命はつながっている”をコンセプトに、多種多様の生物が暮らす生息環境を体感していただけるよう、生き物の生態展示と観覧空間の工夫に進化を続けています。美しさや躍動、不思議さ、驚きや　畏れなど情緒的な経験を通して、自分自身を含む生命と海、そして地球とのつながりに想像力を喚起します。



展示テーマは、地球最大の海“太平洋”を取り囲む
環太平洋火山帯（Ring of Fire）と環太平洋生命帯（Ring of Life）

《取材申込方法》

下記の URL もしくは　右の QR コードより、お申込みください。

https://f.msgs.jp/webapp/form/19951_jndb_267/index.do

WEB 上から取材申込みができない場合は、3 ページ目の申込用紙を
FAX もしくは必要事項を記載の上メールにてご連絡頂きますようお願い致します。

【取材に関する問合せ】

・海遊館広報チーム　村上　TEL：06-6576-5529

・公益財団法人笹川平和財団広報課　上津原（うえつはら）

Email：spfpr@spf.or.jp　　TEL：03-5157-5389　　携帯：080-3696-9517

報道関係者各位 取材のお願い

2019 年 4 月 26 日

公益財団法人笹川平和財団

海遊館

FAX 返信用紙

5/12 開催 海洋フォーラム

大阪から世界の海へ ～海とヒトの関係を考える～

取材の申し込み

【返信先】 笹川平和財団 情報統括部 広報課宛

FAX:03-5157-5420 もしくは spfpr@spf.or.jp 宛てに

5 月 10 日（金）17 時までにご返信ください。

会社名：

所属：

氏名：

住所

TEL：

E-mail：

撮影方法： □ ムービー □ スチール

その他（持ち込み機材等）：

報道関係者各位 取材のお願い

2019年4月26日

公益財団法人笹川平和財団

海遊館

参考資料：講演者およびモデレーター略歴

2019年5月12日
海洋フォーラム「大阪から世界の海へ～海とヒトの関係を考える～」

角南篤（すなみ あつし）

1988年、ジョージタウン大学School of Foreign Service卒業、89年株式会社野村総合研究所政策研究部研究員、92年コロンビア大学国際関係・行政大学院Reader、93年同大学国際関係学修士、97年英サセックス大学科学政策研究所（SPRU）TAGS フェロー、2001 年コロンビア大学政治学博士号（Ph.D.）取得。2001 年から2003年まで独立行政法人経済産業研究所フェロー。2003年政策研究大学院大学助教授、2014年教授、学長補佐、2015年11月より内閣府参与（科学技術・イノベーション政策担当）、2016年4月より副学長。2017年6月より笹川平和財団常務理事・海洋政策研究所所長。

西田清徳（にしだ　きよのり）

1958年生まれ。北海道大学大学院水産学研究科博士課程修了、水産学博士。魚類学、板鰓類（ｻﾒ・ｴｲ）の系統分類学が専門、“イズヒメエイ”“ヤジリエイ”を新種として命名発表。1989年から「海遊館」建設計画に携わり、沖縄県からジンベエザメの長距離輸送を成功させた。1997年に高知県に海洋生物研究所を設置、イトマキエイ類、オナガザメ類の採食方法を解明。2007年より海遊館館長。2012年から2018年まで日本動物園水族館協会の近畿ブロック代表理事と教育普及委員長、また国連生物多様性の10年日本委員会を務める。著書に『日本動物大百科』『研究する水族館』『日本の水族館』『以布利 黒潮の魚』等多数。

岩井克巳（いわい かつみ）

日本ミクニヤ株式会社専務取締役、NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事、NPO法人環境教育技術振興会理事、NPO法人海辺つくり研究会監事、大阪湾見守りネット理事。技術士（建設部門）、水産工学技士（水産土木部門）、潜水士。
1988年に東海大学海洋学部を卒業後、日本ミクニヤ株式会社に勤務し、西日本中心に環境アセスメント業務や環境修復技術検討業務に従事。2010年より執行役員事業本部長、2013年より現職。本業の傍らで、2003年より環境教育（体験学習）に従事し、2007年にNPO法人環境教育技術振興会理事、2011年よりNPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事に就任。現在は阪南市を中心とした大阪南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育の指導、浜の活力再生（漁業の活性化）など地域の海を資源として捉えて活用する活動を指導・実行している。2018年11月には、阪南市で開催された「全国アマモサミット2018in阪南」において実行副委員長を務め、全体プログラムの構成・運営を行った。

前川美湖（まえかわ みこ）

1996年に上智大学文学部卒業後、1999年に英国イースト・アングリア大学大学院（環境と開発）修了。2000年から国連開発計画（UNDP）で７年間勤務し、北京、ニューヨーク、ルワンダ事務所で、環境・エネルギープロジェクトを中心に担当。 2008年に東京大学大学院新領域創成科学研究科で、博士号取得（国際協力学）。2012年に東京大学 総括プロジェクト機構 「水の知」（サントリー） 総括寄付講座 特任助教、2013年に大阪大学 大学院人間科学研究科 グローバル人間学専攻 特任講師、2014年から笹川平和財団に移籍、2015年より現職。

報道関係者各位 取材のお願い

2019 年 4 月 26 日

公益財団法人笹川平和財団

海遊館

竹田有里（たけだ　ゆり）

環境ジャーナリスト。上智大学地球環境学研究科修了。
TOKYO MX でニュースキャスター、社会部・政治部記者を歴任。災害報道や環境番組を制作した後、フジテレビの環境ドキュメンタリー番組「環境クライシス」の記者として企画制作・出演。文化放送「斉藤一美ニュースワイド SAKIDORI!」でサブキャスター・報道記者。「海洋白書」編集委員。その他、雑誌・ウェブページ等で環境分野について執筆。
西日本豪雨の取材を機に、被災地等の間伐材を活用した世界初の「木材ストロー」を発案。

秋道智彌（あきみち ともや）

1946 年生まれ。山梨県立富士山世界遺産センター所長。総合地球環境学研究所名誉教授、国立民族学博物館名誉教授。生態人類学。理学博士。京都大学理学部動物学科、東京大学大学院理学系研究科人類学博士課程単位修得。国立民族学博物館民族文化研究部長、総合地球環境学研究所研究部教授、同研究推進戦略センター長・副所長を経て現職。著書に『魚と人の文明論』、『サンゴ礁に生きる海人』『越境するコモンズ』『漁撈の民族誌』『海に生きる』
『コモンズの地球史』『クジラは誰のものか』『クジラとヒトの民族誌』『海洋民族学』『アユと日本人』等多数。

升間主計（ますま しゅけい）

近畿大学水産研究所白浜実験場教授、水産研究所長および奄美実験場長兼務。1978 年に広島大学水畜産学部水産学科卒業。1980 年から（社）日本栽培漁業協会伯方島事業場において栽培漁業を目的としたマダイ、シロギスなどの親魚養成、種苗生産技術開発に従事。1985 年から八重山事業場，1995 年から奄美事業場においてマグロ類の親魚養成、種苗生産に取り組む。2003 年に（独）水産総合研究センターと組織統合。クロマグロ、キハダの研究により 2006 年に九州大学より農学博士号取得。2011 年に同センター日本海区水産研究所資源生産部長。2012 年に近畿大学水産研究所白浜実験場教授、2013 年より白浜実験場長、奄美実験場長兼務、2015 年に近畿大学水産養殖種苗センター長，2016 年に水産研究所長に就任。2018 年より現職。

鈴木隆史（すずきたかし）

1984 年鹿児島大学大学院水産学研究科修了（水産学修士）。1985 年から 1991 年までインドネシア共和国ボゴール農科大学大学院研究生として留学。愛知学泉大学、追手門大学、日本福祉大学、四国学院大学などで非常勤講師として勤務。2000 年 5 月から 2001 年 8 月まで JICA（国際協力機構）東ティモール事務所企画調査員。2009 年より桃山学院大学兼任講師として勤務。現在に至る。専門はインドネシア地域研究。とりわけ海域世界研究。
インドネシア留学中は、サメ漁業を行う漁村にて調査を行う。
著書に『フカヒレも空を飛ぶ』梨の木舎（1994 年）。

高桑幸一（たかくわ　こういち）

東京工業大学電気工学科卒業後、1974 年北陸電力（株）入社、配電、変電、水力、企画部門を経て、2004 年北電情報システムサービス株式会社社長、富山県情報産業協会会長、2007 年常務取締役原子力副本部長、2009 年常勤監査役、2015 年美しい富山湾クラブを設立し理事・事務局長に就任、2015 年よりタモリカップ富山大会を 4 回開催、2016 年川田テクノロジーズ社外取締役、2017 年富山大学経済学部客員教授（観光戦略）
著書に『監査役の覚悟』

以上